



01 1階平面計画概要

校舎の南側を平屋にして管理棟とし、北側を2階で教室棟として配置しました。昇降口を東の中学側に配置し、スクールバスを乗降する「おはよう広場」に接しています。職員室は「おはよう広場」と昇降口に近接して児童の登下校が見渡せる位置とします。中学校のランチルームと給食厨房に連絡通路を配置し、ランチルームと給食の行き来をスムーズにします。昇降口を入れて正面にフリースペース「ふれあいホール」を配置。児童教職員が1日1回必ず通る場所で展示スペースや情報ディスプレイを設置し、図書室「森の図書館」とも隣接して、地域住民との交流に開放できる位置です。保健室は校庭、体育館に近く緊急車やレントゲン車の進入し易い位置にします。アリーナは地域開放と災害避難所として使いやすい駐車場に近く、避難所として使用することを考えて給排水設備のある家庭科室を隣接させました。

03 おはよう広場と管理棟

スクールバス乗降場「おはよう広場」は職員室正面で見守りに適しています。雨の日にはゆったりとした軒先が待合場所となります。バス利用の中学生も現状の乗降場より校舎動線が短くなります。職員室は昇降口と「ふれあいホール」に隣接して児童や利用者の出入りが見渡せます。職員室を中心に校長室、事務室、放送室、印刷室、更衣室、休憩室などを配置して利用しやすくします。防災関係設備や非常用放送施設などの設置スペースを設けます。保健室を挟んで特別支援室2、多目的教室、相談室2を配置して機能的で利用し易い配置としました。また、管理棟・ふれあいホールからランチルームへ連絡通路で接続していますので、ランチルーム・ふれあいホール双方が小中学校の交流の場となります。

04 アリーナと家庭科室

アリーナは校舎南側に南北軸に配置し、校舎とは屋根付き渡廊下でつながります。地域開放や災害時の避難所としての利用を考慮し駐車場に近く千曲川から一番遠い位置となります。渡り廊下は冬季には風除け壁(移動可能)を設置して寒さ対策をします。風除け壁はドア付きで校庭への動線と地域開放の出入りを可能にします。災害時対策として、遠赤外線暖房を予定し、太陽光発電と非常用電源を併用します。アリーナを南北軸の配置とすることで、おはよう広場や昇降口への八ヶ岳おろし(西からの強風)を弱めます。屋根は地元のカラマツ材の木質を活かした構造で計画します。家庭科室はアリーナが災害避難所で使用されることを考慮してアリーナ内に配置しました。調理と被服兼用の作業台を設置します。

02 ふれあいホールと森の図書館

「ふれあいホール」と「森の図書館」はSociety5.0を実現してゆくための、最も人と情報が集まるスペースとして考えました。発電やエネルギーの使用量を学習したり、制作物や校外交流の展示をしたり、ボルダリングを設置して遊びと体力育成を図ったり、薪ストーブで暖房を実感してもらいます。隣接した「森の図書館」は川上村産カラマツや大桑村産ヒノキ、根羽村産スギの使用します。ツリーハウスをイメージさせるログハウス風中2階を作り、屋根裏空間を利用した吹抜けに設置し、読み聞かせコーナーや中庭と一体感のある木質感溢れる明るく開放的な空間をつくります。

